

官民・国際連携によるASFワクチン開発の加速化及び CSFの新たな総合的防除技術の開発（新規）

背景と目的

- 平成31年3月までに国外から持ち込まれた豚肉製品から、ASF（アフリカ豚コレラ）ウイルスが分離。ASFに対する有効なワクチンはないため、国内発生に備えた官民・国際連携によるワクチン開発の加速化が必要。
- 平成30年9月に、国内において26年ぶりにCSF（豚コレラ）が発生。令和元年8月18日までに、13万頭以上の豚（飼養イノシシ含む）が殺処分され、国内養豚業への被害は甚大。
- 野生イノシシでのCSF感染が拡大し、養豚場への感染源となっているため、野生動物での感染拡大防止とともに、農場への感染防止対策を実施するための技術的基盤を確立することが急務。
- 我が国におけるASFやCSFの清浄性の維持や畜産物の安定供給は、輸出促進の観点からも重要。

研究内容

- **官民・国際連携によるASFワクチン開発の研究**
 - ・ ワクチン候補株の選抜・作出
 - ・ ワクチン株の増殖に用いる細胞の性状解析
 - ・ 病原性評価モデルの確立 など
- **農場へのCSFウイルス侵入リスクを明らかにするための研究**
 - ・ ウイルスの遺伝子情報や疫学情報の解析
 - ・ ヒトや物の移動による間接伝播の可能性 など
- **CSFウイルスの野生動物における感染拡大や野生動物からの感染に関する研究**
 - ・ 野生イノシシの感染機序の解析・感染拡大予測
 - ・ 野生動物（ネズミ等）による農場の感染可能性 など
- **CSFに対するより有効な防疫対策の研究開発**
 - ・ 国産の新規マーカーワクチンの開発や既存ワクチン（輸入ワクチン等）の有効性の検証
 - ・ 感染実験による動物体内でのウイルス残留性試験
 - ・ 感染動物の早期発見のための検査手法の開発・改良
 - ・ 有効な消毒薬・消毒方法の技術開発 など

期待される効果

ASF

- ・ ASFウイルスに対する有効的な**ワクチン開発を加速化**できる

CSF

- ・ **農場への感染リスク要因**を明らかにし、より**有効な防疫対策**を提案できる
- ・ 発生時の**早期発見に資する防除技術**を開発・改良できる

ASFの国内発生に備えた防疫対策の強化、CSFのまん延防止と早期清浄化による経済被害の低減により、豚肉の安定供給が可能となり、輸出促進にも寄与

